

リスキリング・リーダーシップ

2025・9・10 重枝 一郎

生徒の未来、若い先生たちの未来を考える時、これまでのキャリア観とは大きく異なっていくことを想像しなくてはならない。「人生100年時代」という言葉があるように、これまでの「学び⇒仕事⇒老後」のような3ステージの単線型の人生ではなくなる。学び、働き、地域活動への参加、余暇を楽しむ等の活動に、各人がそれぞれのタイミングで、様々な経験や学びを生かして、複線的かつ多様なマルチステージと呼ばれる人生に変化する。

マルチステージの人生求められるのは「柔軟性」である。変化に対して、オープンマインドで、自分の人生の目的や意義を見つけたり、自分の情熱や興味を追求したり、他者に対して貢献することで充実感を得たりすることを人生の各ステージでバランスよくやっていくことが大切になってくる。だから私は「異質のたし算」の話をよくする。

私たちの教育現場でも、デジタルスキルの獲得や特別支援教育等、新しい知識やスキルを身に付ける必要がある。教師は学び続けることで、自身の特性を理解し、長所を伸ばすことができ、そして生徒たちのロールモデルにならなくてはならない。未知の世界・仕事に対応できる力を培うために、必要な時にリスキリングができる環境をつくらなくてはならない。

リスキリングとは「時代や働き方の変化によって、今後新たに発生する業務で役立つスキルや知識の習得を目的に学ぶこと」である。教師で言えば、ここでは「学び直し（リカレント教育）」というより、「常にアップデートする姿勢」と「自らの強みを伸ばし、組織に貢献するための能力の向上」と定義する。

私も私のこれまでの経験だけを伝えればうまくいくとは思っていない。持続可能な学校にするために、リーダーシップをリスキリングする必要があると思っている。トップダウン・アプローチをできるだけ避け、チーム効力感が高まるようにしなければならない。メンバーの価値観や感情に寄り添うマネジメントが大切になる。リスキリングのメリットは「自律型人材の育成」と言われる。生徒の最上位の目標と同じである。

例えば、本校に赴任した当時の「ICT推進委員会」を思い出すと、他の予算を我慢してICTにつぎ込むことだけトップダウンしたが、各学年から1名出してもらい10分でコアチームを編成した。そのコアチームに全ての決定権を委ね、1年でWi-Fi完備とiPad導入を実現した（木下事務部長が頑張ってくれた）。コアチームには、過去から学ぶ復習主義ではなく、新しいスキルや方法を採用する予習主義を求めた。このやり方がリスキリングのあるべき姿になる。同様に、新校舎のリスキリングでは「みらいのカタチ委員会」、土曜授業の廃止・響創コースのリスキリングでは「カリキュラム委員会」の実践がある。これらのコアチームには、心理的安全性と、当事者意識が大切になる。私は、それができている先生方のことにとてもリスペクトしている。ちなみに現在進行形として、スクールバスや授業料無償化に伴う校納金についても、「定例会+α」のコアチームで進めている。

私が、「リスキリング・リーダーシップ」を重視するのは、急速な世の中の変化で予測が立たない時代になっているからである。テクノロジーの進化、STEAM教育、教育方法の変化、インクルーシブ教育、多様な生徒への対応、国際的な教育基準や指標、生涯学習・・・きりが無い（笑）。これらが、リスキリングが必要な理由になる。

私たちの組織には様々なコアチームがある。例えば、入試問題作成に関してもコアチームをつくる。カナン寮についてもコアチームで話し合う。どんなコアチームであれ、新しい視点と心理的安全性が必要になる。そして横方向の学習集団になり、組織に新しい風が吹く。

9/5（金）に音楽科の荒牧先生が、福岡市立千代中学校の3年生にバイオリンの出前授業を行った。荒牧先生には多くの出前授業の依頼が入る。私もよく同行するが、いつも素晴らしい授業である。今回の千代中の依頼は、「生徒の一生の思い出にしたい」という熱烈オファーであった。私は以前この学校に勤務していた。私のキャリアの中でも特に大きな経験を得た学校である。授業後に生徒たちは、荒牧先生と私に校歌を歌ってくれた。泣きそうになった。

9月9日に以下のようなメールが広報室に届きました。

お名前：とくめいきぼう

貴学の生徒様が学校終わりの電車の中で、ご年配の女性の方を見かけるなり、「よかったら！」と笑顔で座席を譲ろうとしていました。

女性の方にはこやかに「大丈夫です！ありがとう！」と返事をされていました。

簡単なようで勇気のある行動です。

大学終わりに素敵な光景を見ることができました。

自分も見習おうと思いました。

ぜひこのエピソードを生徒の皆様にお話いただけると幸いです。

私（重枝）の返信

お伝えいただきありがとうございます。

実は夏休み中、バスで小さなきょうだいが居眠りをしてしまって、乗り過ごした際、本校生徒3名が、その子たちに寄り添い面倒を見ていたことを、同乗していた方からご連絡いただいたことがありました。そのエピソードを2学期の始業式で話しました。

今回のエピソードもととてもうれしく、もちろん生徒に話させていただきます。本校では、「いいところ探し」という人間関係づくりの取組をしています。その際、「いいことをした人も素晴らしいけど、それを見つける目を持った人も素晴らしい」と話しています。お伝えいただいた貴殿に対しても尊敬の念を覚えます。

本年度、生徒に「チャームなファーストペンギンになろう」というパワーワードを発信しています。そのことにもつながる行いだと思います。これからも生徒たちが、共生社会の担い手として成長していけるよう、生徒・教師共に明るくがんばっていきます。

学校長 重枝一郎